

○当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	無期限
主要投資対象	「しんきん世界好配当利回り株マザーファンド」(以下「マザーファンド」といいます。)の受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資することがあります。
運用方針	①マザーファンドの受益証券への投資を通じて、日本を除く世界各国の株式に投資することにより、安定した配当収益の獲得と投資信託財産の成長を目標とします。 ②マザーファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。 ③外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 ④株式の実質組入比率は、原則として高位を保ちます。 ⑤資金動向および市況動向等に急激な変化が生じたとき等、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができないことがあります。
主な投資制限	①株式への実質投資割合には、制限を設けません。 ②外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
収益分配方針	年1回の決算日に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益(評価益も含まれます。)等の全額とします。 ②分配金額は、委託者が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合は、分配を行わないことがあります。

運用報告書(全体版)

しんきん 世界好配当利回り株ファンド (1年決算型)

決算日
(第5期：2023年5月10日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てに預かり厚く御礼申し上げます。

さて、ご購入いただいております「しんきん世界好配当利回り株ファンド(1年決算型)」は2023年5月10日に第5期の決算を行いました。


ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

■運用報告書に関しては、下記にお問い合わせください。

しんきんアセットマネジメント投信株式会社
＜コールセンター＞ ☎ 0120-781812
(土日、休日を除く) 携帯電話からは03-5524-8181
9:00~17:00

本資料は投資信託の運用状況を開示するためのものであり、ファンドの勧誘を目的とするものではありません。

 しんきんアセットマネジメント投信株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号

<https://www.skam.co.jp>

目 次

◇しんきん世界好配当利回り株ファンド（1年決算型）	頁
設定以来の運用実績	1
当期中の基準価額と市況等の推移	1
第5期の運用経過等	2
1万口当たりの費用明細	7
売買及び取引の状況	9
株式売買比率	9
利害関係人との取引状況等	9
第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況	9
自社による当ファンドの設定・解約状況	10
組入資産の明細	10
投資信託財産の構成	10
資産、負債、元本及び基準価額の状況	11
損益の状況	11
分配金のお知らせ	11
◇親投資信託の運用報告書	
しんきん世界好配当利回り株マザーファンド	12

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額		参考指標※		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
		税分配金	期中騰落率	期中騰落率	期中騰落率			
(設定日) 2018年11月16日	円 10,000	円 —	% —	ポイント 10,000	% —	% —	% —	百万円 1
1期(2019年5月10日)	9,779	0	△ 2.2	10,351	3.5	92.1	—	117
2期(2020年5月11日)	7,272	0	△25.6	10,064	△ 2.8	92.5	—	252
3期(2021年5月10日)	11,688	0	60.7	15,022	49.3	97.7	—	611
4期(2022年5月10日)	13,709	0	17.3	16,709	11.2	96.6	—	830
5期(2023年5月10日)	15,753	0	14.9	18,562	11.1	93.5	—	1,368

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しています。

(注3) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式先物比率」は実質比率を記載しています。

(注4) 株式先物比率＝買建比率－売建比率。

(注5) 当初設定時の基準価額は当初元本（1万円当たり10,000円）として記載しています。（以下同じ。）

※参考指標はMSCI-KOKUSAI インデックス（除く日本・米ドルベース）を円換算し、2018年11月15日を10,000としてしんきんアセットマネジメント投信が算出したものです。なお、当初設定時を10,000として記載しています。（以下同じ。）

※ここに掲載される全ての情報は、信頼の置ける情報源から得たものでありますが、その確実性および完結性をMSCIは何ら保証するものではありません。

※この情報はMSCIの営業秘密であり、またその著作権はMSCIに帰属しており、その許諾なしにコピーを含め電子的、機械的な一切の手段その他あらゆる形態を用い、またはあらゆる情報保存、検索システムを用いて出版物、資料、データ等の全部または一部を複製・頒布・使用等することは禁じられています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	基準価額		参考指標		株式組入比率	株式先物比率
		騰落率	騰落率	騰落率	騰落率		
(期首) 2022年5月10日	円 13,709	% —	ポイント 16,709	% —	% 96.6	% —	
5月末	14,634	6.7	17,246	3.2	97.5	—	
6月末	14,359	4.7	16,632	△ 0.5	94.6	—	
7月末	13,795	0.6	17,691	5.9	97.4	—	
8月末	13,475	△ 1.7	17,570	5.2	94.6	—	
9月末	12,603	△ 8.1	16,660	△ 0.3	93.5	—	
10月末	14,240	3.9	18,387	10.0	96.8	—	
11月末	14,806	8.0	18,442	10.4	97.1	—	
12月末	14,079	2.7	16,655	△ 0.3	98.0	—	
2023年1月末	15,023	9.6	17,591	5.3	98.0	—	
2月末	15,658	14.2	18,007	7.8	98.1	—	
3月末	15,211	11.0	18,139	8.6	93.4	—	
4月末	15,615	13.9	18,911	13.2	95.1	—	
(期末) 2023年5月10日	15,753	14.9	18,562	11.1	93.5	—	

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

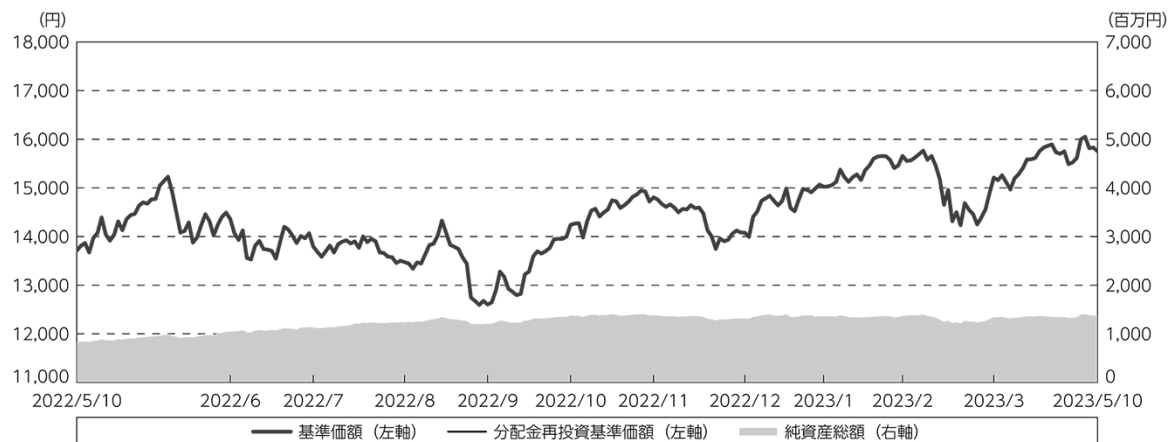
(注2) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しています。

(注3) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式先物比率」は実質比率を記載しています。

(注4) 株式先物比率＝買建比率－売建比率。

○第5期の運用経過等（2022年5月11日～2023年5月10日）

<当期中の基準価額等の推移>



(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金再投資基準価額は、期首(2022年5月10日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

<基準価額の主な変動要因>

当ファンドは、親投資信託である「しんきん世界好配当利回り株マザーファンド」を通じて、世界の先進国・地域(日本を除く)の株式に投資することにより、安定した配当収益の獲得と投資信託財産の成長を目指して運用を行っています。

当期における基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

<上昇要因>

- ・米連邦準備制度理事会(FRB)が利上げ幅を縮小し、利上げ停止や2023年内の利下げ観測が高まったこと。
- ・米国のインフレのピークアウト期待が高まったこと。

<下落要因>

- ・FRBや欧州中央銀行(ECB)の金融引締めが長期化すると懸念されたこと。
- ・米国の中堅銀行の経営破綻や一部米国金融機関からの預金流出などにより、金融不安が高まったこと。

＜投資環境＞

(2022年5～6月)

グローバル株式市場は下落しました。投資家の景気後退リスクへの懸念が高まりました。

市場別に見ると、米国株式市場は下落しました。FRBはインフレ抑制のため、5月に0.50%、6月に0.75%の大幅な利上げを実施し、景気のソフトランディング（軟着陸）を実現することは困難なものになると認めました。ユーロ圏株式市場も下落しました。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続き、天然ガスが供給不足となる可能性への懸念が高まりました。

(2022年7～9月)

グローバル株式市場は下落しました。FRBの利上げペース減速観測が高まり、7月から8月上旬にかけて株価が大幅に上昇する局面はありましたが、インフレ率が高止まりする中、FRBやECBなど主要国・地域の中央銀行が大幅な利上げを続け、タカ派的な姿勢を強めたことで、株価は下落して終わりました。

市場別に見ると、米国株式市場は下落しました。パウエルFRB議長は、7月下旬の米連邦公開市場委員会（FOMC）において将来的に利上げペースを緩める可能性を示唆しましたが、8月下旬のジャクソンホール会議において、FRBは金融引締め政策をしばらく維持する必要があることを表明しました。なお、FRBは7月と9月にそれぞれ0.75%の利上げを実施しました。ユーロ圏株式市場も下落しました。ガスや電気料金の高騰などによるインフレ高進とそれに伴う経済成長への懸念が高まったほか、英国のトラス新政権が打ち出した大規模な減税策と国債の増発計画を受け、英国などの金利が上昇したことが嫌気されました。なお、ECBは7月に0.50%、9月に0.75%の利上げを実施しました。

(2022年10～12月)

グローバル株式市場は上昇しました。金融引締め長期化への懸念が相場の重しとなりましたが、インフレの鈍化とそれに伴う利上げペースの緩和期待が支援材料となりました。

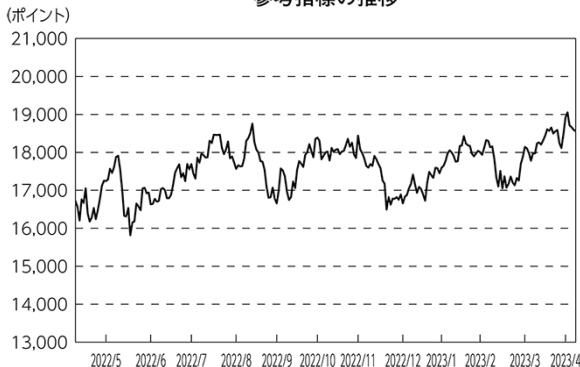
市場別に見ると、米国株式市場は上昇しました。10月と11月の米消費者物価指数（CPI）の伸びが鈍化し、インフレのピークアウト期待が高まりました。FRBは11月に4会合連続の0.75%の利上げを実施した後、12月に利上げ幅を0.50%に縮小し、利上げペースを緩和しました。しかし、その一方で、FRBは利上げを継続する姿勢を示しました。ユーロ圏株式市場も上昇しました。ECBは10月に0.75%の利上げを実施した後、12月に利上げ幅を0.50%に縮小しましたが、ラガルドECB総裁は「利上げはこれだけでは十分ではない」と述べるなど、タカ派的な姿勢を示しました。

(2023年1～3月)

グローバル株式市場は上昇して終わりました。利上げペースの緩和期待が高まり、上昇した後、金融引締め長期化への懸念や欧米金融機関の信用不安の高まりなどを受けて、上昇幅を縮小する局面はありましたが、米国金融当局などが金融支援策を迅速に打ち出したことなどにより、投資家心理が改善したことや、FRBが利上げを停止し、年内に利下げに転じるとの観測が高まったことで、上昇しました。

市場別に見ると、米国株式市場は上昇しました。シリコンバレー銀行などの米国の中堅銀行が経営破綻し、金融市場は一時混乱しましたが、米国金融当局が預金保護や資金供給などの金融支援策を発表し、金融不安は徐々に和らぎました。FRBは2月に利上げ幅を0.25%に縮小し、3月も0.25%の利上げを実施しましたが、

参考指標の推移



F O M C の声明文で米利上げサイクルの終焉が近いことが示唆されました。欧州株式市場も上昇しました。欧州ではクレディ・スイス・グループが経営難に陥り、スイス当局の仲介により U B S に買収されました。なお、E C B は 2 月と 3 月にそれぞれ 0. 50% の利上げを実施しました。

(2023年 4 ～ 5 月)

グローバル株式市場は小幅に上昇しましたが、景気や利上げをめぐる思わくが交錯し、方向感に乏しい展開となりました。

市場別に見ると、米国株式市場は小幅に上昇しました。一部米国金融機関からの預金流出が明らかになり、金融不安が再燃した一方、主要な米テクノロジー企業が市場予想を上回る決算を発表しました。米国のインフレ指標が総じて鈍化傾向にあり、米利上げの停止観測が広がる中、F R B は 5 月の F O M C で 0. 25% の利上げを実施し、利上げ停止の可能性を示唆しました。欧州株式市場も小幅に上昇しました。ユーロ圏の 1 - 3 月期の成長率はプラス 0. 1% となり、前期のマイナス成長からプラスに転換しました。なお、E C B は 5 月に利上げ幅を 0. 25% に縮小しましたが、利上げの継続を示唆しました。

<当ファンドのポートフォリオ>

親投資信託である「しんきん世界好配当利回り株マザーファンド」の受益証券への投資を行い、当期を通じて組入比率が高位となるように調整しました。

●しんきん世界好配当利回り株マザーファンド

設定・解約および個別銘柄の収益見通し、配当方針、株主への利益還元などの要素に加え、株価の割安度合いなどに対する判断結果から、必要に応じて銘柄の加除および入替え等を行った結果、組入銘柄数は期首の 44 銘柄に対し、期末時点では 40 銘柄になりました。なお、運用の指図に関する権限は、シュローダー・インベストメント・マネジメント・リミテッドに委託しています。

<業種構成>

参考指標 (MSCI - KOKUSAI インデックス) 対比で見た業種別の期中平均組入比率は、次の表のとおりです。

業 種	ポートフォリオ	参 考 指 標	差 異
金融	22.0%	16.0%	+ 5.9%
コミュニケーション・サービス	16.8%	6.9%	+ 9.9%
生活必需品	14.3%	8.1%	+ 6.2%
ヘルスケア	13.6%	14.1%	△ 0.5%
一般消費財・サービス	9.3%	9.9%	△ 0.7%
エネルギー	7.5%	5.6%	+ 1.9%
素材	6.8%	4.4%	+ 2.5%
情報技術	6.7%	19.3%	△ 12.5%
資本財・サービス	1.7%	10.0%	△ 8.3%
公益事業	1.4%	3.2%	△ 1.8%
不動産	0.0%	2.7%	△ 2.7%

※比率は株式部分のみを計算。計算には Bloomberg を使用。

業種別の期中平均組入比率は、「コミュニケーション・サービス」、「生活必需品」などの業種を参考指標と比較して高位とし、「情報技術」、「資本財・サービス」などの業種を低位としました。

「金融」、「一般消費財・サービス」などの組入れが、ポートフォリオ（米ドルベース）の騰落率に対して主なプラス要因になり、「情報技術」、「ヘルスケア」などの組入れが、主なマイナス要因になりました。

<国別構成>

参考指標（MSCI-KOKUSAIインデックス）対比で見た国別の期中平均組入比率は、次の表のとおりです。

地 域	国 名	ポートフォリオ	参 考 指 標	差 異
北米地域	アメリカ	27.5%	73.1%	△45.6%
	カナダ	0.0%	3.7%	△ 3.7%
欧州地域	イギリス	27.1%	4.6%	+22.5%
	ドイツ	15.9%	2.4%	+13.5%
	フランス	10.7%	3.5%	+ 7.2%
	イタリア	6.8%	0.7%	+ 6.1%
	ベルギー	3.5%	0.3%	+ 3.2%
	スペイン	2.4%	0.7%	+ 1.6%
	オランダ	1.8%	1.3%	+ 0.5%
	スイス	1.5%	3.0%	△ 1.5%
	スウェーデン	0.0%	1.0%	△ 1.0%
	デンマーク	0.0%	0.8%	△ 0.8%
	フィンランド	0.0%	0.3%	△ 0.3%
	ノルウェー	0.0%	0.2%	△ 0.2%
	アイルランド	0.0%	0.2%	△ 0.2%
	イスラエル	0.0%	0.2%	△ 0.2%
	ポルトガル	0.0%	0.1%	△ 0.1%
	オーストリア	0.0%	0.1%	△ 0.1%
アジア・パシフィック地域	シンガポール	1.6%	0.4%	+ 1.2%
	オーストラリア	1.2%	2.3%	△ 1.1%
	香港	0.0%	0.9%	△ 0.9%
	ニュージーランド	0.0%	0.1%	△ 0.1%

※比率は株式部分のみを計算。計算にはBloombergを使用。

国別の期中平均組入比率は、「イギリス」、「ドイツ」などの国を参考指標と比較して高位とし、「アメリカ」、「カナダ」などの国を低位としました。

「イギリス」、「ドイツ」などの組入れが、ポートフォリオ（米ドルベース）の騰落率に対して主なプラス要因になり、「アメリカ」の組入れが、主なマイナス要因になりました。

<当ファンドのベンチマークとの差異>

当ファンドは、世界の先進国・地域（日本を除く）の株式に投資することにより、安定した配当収益の獲得と投資信託財産の成長を目指していますが、特定の指数を上回るまたは連動を目指した運用を行っていないため、ベンチマークはありません。

当期の基準価額の騰落率は+14.9%となり、同期間の参考指標の騰落率+11.1%を3.8ポイント上回りました。

主な要因は、業種別では金融や一般消費財・サービスなどでの銘柄選択、国別ではイタリアやイギリスなどでの銘柄選択がプラスに寄与したことです。

<分配金>

当期の分配金については、基準価額の水準、市場動向等の諸々の状況を勘案して見送りとしました。なお、収益分配に充てなかった部分については、信託財産中に留保し運用の基本方針に基づき運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第5期
	2022年5月11日～ 2023年5月10日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	5,761

(注1) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

<今後の運用方針>

引き続き、運用の基本方針に従い、主として親投資信託である「しんきん世界好配当利回り株マザーファンド」の受益証券への投資を行い、安定した配当収益の獲得と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。

●しんきん世界好配当利回り株マザーファンド

引き続き、経営力に秀で、質の高い、収益見通しのより明瞭な銘柄の発掘に注力し、特に明確な配当方針を持つ企業や、株主への利益還元真剣に取り組む姿勢を明らかにしている企業を選好して投資するとともに、投資信託財産の成長を目指して運用を行います。

また、株式組入比率は、原則として高位を保つこととし、銘柄の加除および入替え等が必要な場合は随時行っていきます。

なお、運用の指図に関する権限は、シュローダー・インベストメント・マネジメント・リミテッドに委託します。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年5月11日～2023年5月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 212	% 1.463	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(127)	(0.880)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(80)	(0.550)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(5)	(0.033)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	5	0.034	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	(5)	(0.034)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税	9	0.062	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	(9)	(0.062)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用	7	0.047	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(6)	(0.040)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.002)	信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	233	1.606	
期中の平均基準価額は、14,458円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等の掛かるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

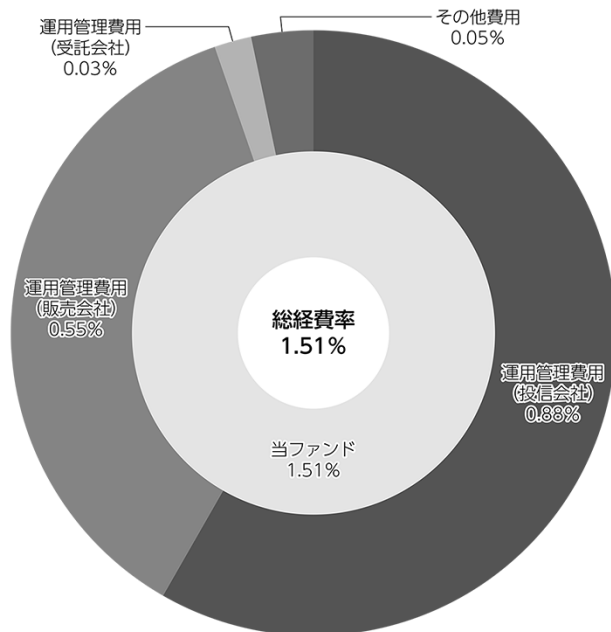
(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.51%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2022年5月11日～2023年5月10日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
しんきん世界好配当利回り株マザーファンド	千口 189,799	千円 639,300	千口 83,463	千円 300,700

(注) 単位未満は切り捨て。

○株式売買比率

(2022年5月11日～2023年5月10日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
	しんきん世界好配当利回り株マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	28,976,769千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	23,766,150千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.21

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2022年5月11日～2023年5月10日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況

(2022年5月11日～2023年5月10日)

該当事項はございません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2022年5月11日～2023年5月10日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2023年5月10日現在)

親投資信託残高

銘	柄	期首(前期末)	当 期 末	
		口 数	口 数	評 価 額
		千口	千口	千円
しんきん世界好配当利回り株マザーファンド		255,041	361,377	1,367,921

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨て。

親投資信託における組入資産の明細につきましては、後述の親投資信託の「運用報告書」をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2023年5月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
しんきん世界好配当利回り株マザーファンド	千円 1,367,921	% 98.5
コール・ローン等、その他	21,424	1.5
投資信託財産総額	1,389,345	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注2) しんきん世界好配当利回り株マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(26,970,043千円)の投資信託財産総額(27,369,129千円)に対する比率は98.5%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価を我が国の対顧客電信売相場場の仲値により邦貨換算したものです。2023年5月10日現在、1ドル=135.15円、1ユーロ=148.23円、1ポンド=170.65円、1スイスフラン=151.87円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年5月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,389,345,223
コール・ローン等	10,923,260
しんきん世界好配当利回り株マザーファンド(評価額)	1,367,921,963
未収入金	10,500,000
(B) 負債	20,796,668
未払解約金	10,990,360
未払信託報酬	9,768,451
未払利息	32
その他未払費用	37,825
(C) 純資産総額(A-B)	1,368,548,555
元本	868,748,612
次期繰越損益金	499,799,943
(D) 受益権総口数	868,748,612口
1万口当たり基準価額(C/D)	15,753円

(注1) 当ファンドの期首元本額は605,937,713円、期中追加設定元本額は702,583,670円、期中一部解約元本額は439,772,771円です。

(注2) 1口当たり純資産額は1.5753円です。

○損益の状況 (2022年5月11日～2023年5月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 3,431
支払利息	△ 3,431
(B) 有価証券売買損益	158,079,850
売買益	200,832,665
売買損	△ 42,752,815
(C) 信託報酬等	△ 18,207,638
(D) 当期損益金(A+B+C)	139,868,781
(E) 前期繰越損益金	107,819,579
(F) 追加信託差損益金	252,111,583
(配当等相当額)	(250,958,613)
(売買損益相当額)	(1,152,970)
(G) 計(D+E+F)	499,799,943
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	499,799,943
追加信託差損益金	252,111,583
(配当等相当額)	(252,830,323)
(売買損益相当額)	(△ 718,740)
分配準備積立金	247,688,360

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(47,560,083円)、費用控除後の有価証券等損益額(92,308,698円)、信託約款に規定する収益調整金(252,830,323円)および分配準備積立金(107,819,579円)より分配対象収益は500,518,683円(10,000口当たり5,761円)ですが、当期に分配した金額はありません。

(注5) 信託財産の運用指図に係る権限の一部を委託するために要した費用として、マザーファンドの純資産総額のうち当ファンドに帰属する部分に対して、年1万分の50の率を乗じて得た金額を委託者報酬の中から支弁しています。

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税込み)	0円
----------------	----

運用報告書

親投資信託

しんきん世界好配当利回り株マザーファンド

第18期

(決算日：2023年5月10日)

しんきん世界好配当利回り株マザーファンドの第18期に係る運用状況をご報告申し上げます。

○当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	親投資信託
信託期間	無期限
運用方針	<p>①日本を除く世界各国の配当利回りの高い企業の株式へ分散投資を行うことにより、安定した配当収益の獲得と投資信託財産の成長を目標とします。</p> <p>②運用指図に関する権限は、シュローダー・インベストメント・マネジメント・リミテッドに委託します。</p> <p>③株式の銘柄選定にあたっては、銘柄毎の配当利回り・増配期待・流動性に着目しつつ、企業のファンダメンタル分析も勘案して行います。</p> <p>④外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</p> <p>⑤株式の組入比率は、原則として高位を保ちます。</p> <p>⑥資金動向および市況動向等に急激な変化が生じたとき等やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができないことがあります。</p>
主要投資対象	日本を除く世界各国の株式を主要投資対象とします。
投資制限	<p>①株式への投資割合には、制限を設けません。</p> <p>②外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。</p> <p>③新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合には、取得時において投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>④同一銘柄の株式への投資割合は、取得時において投資信託財産の純資産総額10%以下とします。</p> <p>⑤同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合には、取得時において投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>⑥同一銘柄の転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）への投資は、取得時において投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>⑦投資信託証券への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p>

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		参考指標※		株式先物比率	株式先物比率	投資信託証券組入比率	純資産総額
	円	騰落率	ポイント	騰落率				
14期(2019年5月10日)	22,177	△ 6.6	24,244	3.9	92.6	—	—	19,854
15期(2020年5月11日)	16,723	△24.6	23,573	△ 2.8	93.0	—	—	15,840
16期(2021年5月10日)	27,302	63.3	35,185	49.3	98.1	—	—	25,898
17期(2022年5月10日)	32,490	19.0	39,136	11.2	96.9	—	—	23,763
18期(2023年5月10日)	37,853	16.5	43,478	11.1	93.5	—	—	27,298

(注) 株式先物比率＝買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		参考指標※		株式先物比率	株式先物比率	投資信託証券組入比率
	円	騰落率	ポイント	騰落率			
(期首) 2022年5月10日	32,490	—	39,136	—	96.9	—	—
5月末	34,715	6.8	40,394	3.2	97.6	—	—
6月末	34,099	5.0	38,957	△ 0.5	94.7	—	—
7月末	32,794	0.9	41,436	5.9	97.5	—	—
8月末	32,075	△ 1.3	41,154	5.2	94.6	—	—
9月末	30,033	△ 7.6	39,021	△ 0.3	93.5	—	—
10月末	33,976	4.6	43,068	10.0	96.9	—	—
11月末	35,363	8.8	43,197	10.4	97.1	—	—
12月末	33,667	3.6	39,010	△ 0.3	98.1	—	—
2023年1月末	35,968	10.7	41,202	5.3	98.0	—	—
2月末	37,530	15.5	42,178	7.8	98.2	—	—
3月末	36,498	12.3	42,487	8.6	93.4	—	—
4月末	37,504	15.4	44,294	13.2	95.1	—	—
(期末) 2023年5月10日	37,853	16.5	43,478	11.1	93.5	—	—

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) 株式先物比率＝買建比率－売建比率。

※参考指標はMSCI-KOKUSAI インデックス（除く日本・米ドルベース）を円換算し、2005年11月14日を10,000としてしんきんアセットマネジメント投信が算出したものです。（以下同じ。）

※ここに掲載される全ての情報は、信頼の置ける情報源から得たものでありますが、その確実性および完結性をMSCIは何ら保証するものではありません。

※この情報はMSCIの営業秘密であり、またその著作権はMSCIに帰属しており、その許諾なしにコピーを含め電子的、機械的な一切の手段その他あらゆる形態を用い、またはあらゆる情報保存、検索システムを用いて出版物、資料、データ等の全部または一部を複製・頒布・使用等することは禁じられています。

○第18期の運用経過等 (2022年5月11日～2023年5月10日)

<当期中の基準価額等の推移>



当ファンドは、世界の先進国・地域（日本を除く）の株式に投資することにより、安定した配当収益の獲得と投資信託財産の成長を目指して運用を行っています。

当期における基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

<上昇要因>

- ・米連邦準備制度理事会（F R B）が利上げ幅を縮小し、利上げ停止や2023年内の利下げ観測が高まったこと。
- ・米国のインフレのピークアウト期待が高まったこと。

<下落要因>

- ・F R Bや欧州中央銀行（E C B）の金融引締めが長期化すると懸念されたこと。
- ・米国の中堅銀行の経営破綻や一部米国金融機関からの預金流出などにより、金融不安が高まったこと。

<投資環境>

(2022年5～6月)

グローバル株式市場は下落しました。投資家の景気後退リスクへの懸念が高まりました。

市場別に見ると、米国株式市場は下落しました。F R Bはインフレ抑制のため、5月に0.50%、6月に0.75%の大幅な利上げを実施し、景気のソフトランディング（軟着陸）を実現することは困難なものになると認めました。ユーロ圏株式市場も下落しました。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続き、天然ガスが供給不足となる可能性への懸念が高まりました。

(2022年7～9月)

グローバル株式市場は下落しました。F R Bの利上げペース減速観測が高まり、7月から8月上旬にかけて株価が大幅に上昇する局面はありましたが、インフレ率が高止まりする中、F R BやE C Bなど主要国・地域の中央銀行が大幅な利上げを続け、タカ派的な姿勢を強めたことで、株価は下落して終えました。

市場別に見ると、米国株式市場は下落しました。パウエルF R B議長は、7月下旬の米連邦公開市場委員会（F O M C）において将来的に利上げペースを緩める可能性を示唆しましたが、8月下旬のジャクソンホール会議において、F R Bは金融引締め政策をしばらく維持する必要があることを表明しました。なお、F R Bは

7月と9月にそれぞれ0.75%の利上げを実施しました。ユーロ圏株式市場も下落しました。ガスや電気料金の高騰などによるインフレ高進とそれに伴う経済成長への懸念が高まったほか、英国のトラス新政権が打ち出した大規模な減税策と国債の増発計画を受け、英国などの金利が上昇したことが嫌気されました。なお、ECBは7月に0.50%、9月に0.75%の利上げを実施しました。

(2022年10～12月)

グローバル株式市場は上昇しました。金融引締め長期化への懸念が相場の重しとなりましたが、インフレの鈍化とそれに伴う利上げペースの緩和期待が支援材料となりました。

市場別に見ると、米国株式市場は上昇しました。10月と11月の米消費者物価指数(CPI)の伸びが鈍化し、インフレのピークアウト期待が高まりました。FRBは11月に4会合連続の0.75%の利上げを実施した後、12月に利上げ幅を0.50%に縮小し、利上げペースを緩和しました。しかし、その一方で、FRBは利上げを継続する姿勢を示しました。ユーロ圏株式市場も上昇しました。ECBは10月に0.75%の利上げを実施した後、12月に利上げ幅を0.50%に縮小しましたが、ラガルドECB総裁は「利上げはこれだけでは十分ではない」と述べるなど、タカ派的な姿勢を示しました。

(2023年1～3月)

グローバル株式市場は上昇して終えました。利上げペースの緩和期待が高まり、上昇した後、金融引締め長期化への懸念や欧米金融機関の信用不安の高まりなどを受けて、上昇幅を縮小する局面はありましたが、米国金融当局などが金融支援策を迅速に打ち出したことなどにより、投資家心理が改善したことや、FRBが利上げを停止し、年内に利下げに転じるとの観測が高まったことで、上昇しました。

市場別に見ると、米国株式市場は上昇しました。シリコンバレー銀行などの米国の中堅銀行が経営破綻し、金融市場は一時混乱しましたが、米国金融当局が預金保護や資金供給などの金融支援策を発表し、金融不安は徐々に和らぎました。FRBは2月に利上げ幅を0.25%に縮小し、3月も0.25%の利上げを実施しましたが、FOMCの声明文で米利上げサイクルの終焉が近いことが示唆されました。欧州株式市場も上昇しました。欧州ではクレディ・スイス・グループが経営難に陥り、スイス当局の仲介によりUBSに買収されました。なお、ECBは2月と3月にそれぞれ0.50%の利上げを実施しました。

(2023年4～5月)

グローバル株式市場は小幅に上昇しましたが、景気や利上げをめぐる思わくが交錯し、方向感に乏しい展開となりました。

市場別に見ると、米国株式市場は小幅に上昇しました。一部米国金融機関からの預金流出が明らかになり、金融不安が再燃した一方、主要な米テクノロジー企業が市場予想を上回る決算を発表しました。米国のインフレ指標が総じて鈍化傾向にあり、米利上げの停止観測が広がる中、FRBは5月のFOMCで0.25%の利上げを実施し、利上げ停止の可能性を示唆しました。欧州株式市場も小幅に上昇しました。ユーロ圏の1-3月期の成長率はプラス0.1%となり、前期のマイナス成長からプラスに転換しました。なお、ECBは5月に利上げ幅を0.25%に縮小しましたが、利上げの継続を示唆しました。

<当ファンドのポートフォリオ>

設定・解約および個別銘柄の収益見通し、配当方針、株主への利益還元などの要素に加え、株価の割安度合いなどに対する判断結果から、必要に応じて銘柄の加除および入替え等を行った結果、組入銘柄数は期首の44銘柄に対し、期末時点では40銘柄になりました。

なお、運用の指図に関する権限は、シュローダー・インベストメント・マネジメント・リミテッドに委託しています。

しんきん世界好配当利回り株マザーファンド – 第 18 期 –

(業種構成)

参考指標 (MSCI-KOKUSAIインデックス) 対比で見た業種別の期中平均組入比率は、次の表のとおりです。

業 種	ポ ー ト フ ォ リ オ	参 考 指 標	差 異
金融	22.0%	16.0%	+ 5.9%
コミュニケーション・サービス	16.8%	6.9%	+ 9.9%
生活必需品	14.3%	8.1%	+ 6.2%
ヘルスケア	13.6%	14.1%	△ 0.5%
一般消費財・サービス	9.3%	9.9%	△ 0.7%
エネルギー	7.5%	5.6%	+ 1.9%
素材	6.8%	4.4%	+ 2.5%
情報技術	6.7%	19.3%	△12.5%
資本財・サービス	1.7%	10.0%	△ 8.3%
公益事業	1.4%	3.2%	△ 1.8%
不動産	0.0%	2.7%	△ 2.7%

※比率は株式部分のみを計算。計算にはBloombergを使用

業種別の期中平均組入比率は、「コミュニケーション・サービス」、「生活必需品」などの業種を参考指標と比較して高位とし、「情報技術」、「資本財・サービス」などの業種を低位としました。

「金融」、「一般消費財・サービス」などの組入れが、ポートフォリオ (米ドルベース) の騰落率に対して主なプラス要因になり、「情報技術」、「ヘルスケア」などの組入れが、主なマイナス要因になりました。

(国別構成)

参考指標 (MSCI-KOKUSAIインデックス) 対比で見た国別の期中平均組入比率は、次の表のとおりです。

地 域	国 名	ポ ー ト フ ォ リ オ	参 考 指 標	差 異
北米地域	アメリカ	27.5%	73.1%	△45.6%
	カナダ	0.0%	3.7%	△ 3.7%
欧州地域	イギリス	27.1%	4.6%	+22.5%
	ドイツ	15.9%	2.4%	+13.5%
	フランス	10.7%	3.5%	+ 7.2%
	イタリア	6.8%	0.7%	+ 6.1%
	ベルギー	3.5%	0.3%	+ 3.2%
	スペイン	2.4%	0.7%	+ 1.6%
	オランダ	1.8%	1.3%	+ 0.5%
	スイス	1.5%	3.0%	△ 1.5%
	スウェーデン	0.0%	1.0%	△ 1.0%
	デンマーク	0.0%	0.8%	△ 0.8%
	フィンランド	0.0%	0.3%	△ 0.3%
	ノルウェー	0.0%	0.2%	△ 0.2%
	アイルランド	0.0%	0.2%	△ 0.2%
	イスラエル	0.0%	0.2%	△ 0.2%
	ポルトガル	0.0%	0.1%	△ 0.1%
オーストリア	0.0%	0.1%	△ 0.1%	
アジア・パシフィック地域	シンガポール	1.6%	0.4%	+ 1.2%
	オーストラリア	1.2%	2.3%	△ 1.1%
	香港	0.0%	0.9%	△ 0.9%
	ニュージーランド	0.0%	0.1%	△ 0.1%

※比率は株式部分のみを計算。計算にはBloombergを使用

国別の期中平均組入比率は、「イギリス」、「ドイツ」などの国を参考指標と比較して高位とし、「アメリカ」、「カナダ」などの国を低位としました。

「イギリス」、「ドイツ」などの組入れが、ポートフォリオ（米ドルベース）の騰落率に対して主なプラス要因になり、「アメリカ」の組入れが、主なマイナス要因になりました。

＜当ファンドのベンチマークとの差異＞

当ファンドは、世界の先進国・地域（日本を除く）の株式に投資することにより、安定した配当収益の獲得と投資信託財産の成長を目指していますが、特定の指数を上回るまたは連動を目指した運用を行っていないため、ベンチマークはありません。

当期の基準価額の騰落率は+16.5%となり、同期間の参考指標の騰落率+11.1%を5.4ポイント上回りました。主な要因は、業種別では金融や一般消費財・サービスなどでの銘柄選択、国別ではイタリアやイギリスなどでの銘柄選択がプラスに寄与したことです。

＜今後の運用方針＞

引き続き、経営力に秀で、質の高い、収益見通しのより明瞭な銘柄の発掘に注力し、特に明確な配当方針を持つ企業や、株主への利益還元真剣に取り組む姿勢を明らかにしている企業を選好して投資するとともに、投資信託財産の成長を目指して運用を行います。

また、株式組入比率は、原則として高位を保つこととし、銘柄の加除および入替え等が必要な場合は随時行っていきます。

なお、運用の指図に関する権限は、シュローダー・インベストメント・マネジメント・リミテッドに委託します。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年 5 月11日～2023年 5 月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 12 (12)	% 0.034 (0.034)	(a) 売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	21 (21)	0.061 (0.061)	(b) 有価証券取引税=期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	15 (14) (1)	0.042 (0.040) (0.002)	(c) その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	48	0.137	
期中の平均基準価額は、34,518円です。			

(注 1) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注 2) 各比率は 1 万口当たりのそれぞれの費用金額 (円未満の端数を含む) を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第 3 位未満は四捨五入しています。

○売買及び取引の状況

(2022年5月11日～2023年5月10日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外	アメリカ	百株 10,382	千ドル 39,683	百株 4,843	千ドル 22,451
	ユーロ		千ユーロ		千ユーロ
	ドイツ	7,665	24,833	4,813	10,888
	イタリア	6,889	3,221	10,070	10,969
	フランス	6,851	8,584	3,651 (-)	7,473 (107)
	オランダ	831	904	544	592
	スペイン	803	1,084	3,080	4,316
	ベルギー	1,173	3,701	360	1,149
	イギリス	71,483 (2,465)	千ポンド 16,436 (777)	88,714 (1,385)	千ポンド 31,706 (777)
	スイス	93	千スイスフラン 774	61	千スイスフラン 506
国	オーストラリア	1,509	千オーストラリアドル 583	11,973	千オーストラリアドル 5,475
	シンガポール	9,225	千シンガポールドル 753	73,180	千シンガポールドル 7,062

(注1) 金額は受渡代金。

(注2) 単位未満は切り捨て。

(注3) () 内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれていません。

○株式売買比率

(2022年5月11日～2023年5月10日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	28,976,769千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	23,766,150千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.21

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2022年5月11日～2023年5月10日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2023年5月10日現在)

外国株式

銘柄	株数	当期		業種等		
		株数	評価額			
(アメリカ)	百株	百株	千ドル	千円		
BRISTOL-MYERS SQUIBB CO	810	524	3,569	482,439	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
CITIGROUP INC	562	826	3,844	519,559	銀行	
HF SINCLAIR CORP	1,144	—	—	—	エネルギー	
EBAY INC	—	1,006	4,609	623,010	一般消費財・サービス流通・小売り	
INTL BUSINESS MACHINES CORP	428	336	4,078	551,220	ソフトウェア・サービス	
INTEL CORP	1,332	2,177	6,555	885,948	半導体・半導体製造装置	
MICRON TECHNOLOGY INC	—	815	4,968	671,530	半導体・半導体製造装置	
OMNICOM GROUP	337	—	—	—	メディア・娯楽	
PFIZER INC	664	1,043	4,016	542,892	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
STANLEY BLACK & DECKER INC	—	564	4,615	623,769	資本財	
MOLSON COORS BEVERAGE CO	1,119	1,045	6,745	911,689	食品・飲料・タバコ	
VIATRIS INC	2,245	3,318	3,232	436,810	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
VERIZON COMMUNICATIONS INC	—	1,504	5,652	763,988	電気通信サービス	
WALGREENS BOOTS ALLIANCE INC	825	1,512	4,755	642,700	生活必需品流通・小売り	
WESTERN UNION CO	3,185	3,518	4,309	582,465	金融サービス	
小計	株数・金額	12,656	18,195	60,954	8,238,026	
	銘柄数<比率>	11	13	—	<30.2%>	
(ユーロ…ドイツ)			千ユーロ			
BASF SE	—	1,009	4,729	701,084	素材	
BAYER AG	823	686	4,003	593,409	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
CONTINENTAL AG	735	906	5,800	859,860	自動車・自動車部品	
HEIDELBERGCEMENT AG	—	518	3,631	538,291	素材	
HENKEL AG & CO KGAA VOR-PREF	—	781	5,843	866,217	家庭用品・パーソナル用品	
RTL GROUP S.A.	705	1,129	4,475	663,452	メディア・娯楽	
Schaeffler AG Preference NPV	4,940	5,024	3,022	447,975	自動車・自動車部品	
小計	株数・金額	7,203	10,056	31,507	4,670,291	
	銘柄数<比率>	4	7	—	<17.1%>	
(ユーロ…イタリア)						
ENI SPA	4,125	2,733	3,695	547,748	エネルギー	
INTESA SANPAOLOA	17,473	19,297	4,740	702,663	銀行	
UNICREDIT SPA	3,613	—	—	—	銀行	
小計	株数・金額	25,211	22,030	8,435	1,250,411	
	銘柄数<比率>	3	2	—	<4.6%>	
(ユーロ…フランス)						
AXA SA	1,005	1,537	4,235	627,789	保険	
EUROAPI SASU	23	—	—	—	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	

しんきん世界好配当利回り株マザーファンド - 第18期 -

銘柄	株数	期首(前期末)			当 期 末		業 種 等
		株 数	株 数	評 価 額			
				外貨建金額	邦貨換算金額		
(ユーロ…フランス)		百株	百株	千ユーロ	千円		
ORANGE		5,283	5,807	6,800	1,008,064		電気通信サービス
PUBLICIS GROUPE SA		561	—	—	—		メディア・娯楽
SANOFI		544	601	6,064	898,883		医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
SES GLOBAL-FDR		4,351	7,024	4,130	612,243		メディア・娯楽
小 計	株 数 ・ 金 額	11,770	14,970	21,230	3,146,980		
	銘柄 数 < 比 率 >	6	4	—	<11.5%>		
(ユーロ…オランダ)							
ING GROEP NV		2,748	3,035	3,394	503,105		銀行
小 計	株 数 ・ 金 額	2,748	3,035	3,394	503,105		
	銘柄 数 < 比 率 >	1	1	—	<1.8%>		
(ユーロ…スペイン)							
REPSOL SA		4,835	2,558	3,328	493,384		エネルギー
小 計	株 数 ・ 金 額	4,835	2,558	3,328	493,384		
	銘柄 数 < 比 率 >	1	1	—	<1.8%>		
(ユーロ…ベルギー)							
AGEAS		586	1,015	4,142	614,062		保険
COLRUYT SA		982	1,366	4,138	613,466		生活必需品流通・小売り
小 計	株 数 ・ 金 額	1,569	2,382	8,281	1,227,529		
	銘柄 数 < 比 率 >	2	2	—	<4.5%>		
ユ ー ロ 計	株 数 ・ 金 額	53,339	55,033	76,176	11,291,702		
	銘柄 数 < 比 率 >	17	17	—	<41.4%>		
(イギリス)				千ポンド			
ANGLO AMERICAN PLC		755	500	1,224	208,894		素材
BT GROUP PLC		24,040	25,221	3,889	663,686		電気通信サービス
CENTRICA PLC		27,536	—	—	—		公益事業
GSK PLC		2,662	3,560	5,149	878,754		医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス
HSBC HOLDINGS PLC		5,001	—	—	—		銀行
IMPERIAL BRANDS PLC		2,476	—	—	—		食品・飲料・タバコ
ITV PLC		34,989	57,721	4,544	775,601		メディア・娯楽
NATWEST GROUP PLC		12,485	12,803	3,351	572,012		銀行
PEARSON PLC		5,172	—	—	—		メディア・娯楽
SHELL PLC		2,188	1,390	3,306	564,268		エネルギー
STANDARD CHARTERED PLC		8,128	5,516	3,335	569,153		銀行
TESCO PLC		13,668	15,095	4,296	733,126		生活必需品流通・小売り
WPP PLC		2,530	3,674	3,297	562,768		メディア・娯楽
小 計	株 数 ・ 金 額	141,635	125,484	32,395	5,528,267		
	銘柄 数 < 比 率 >	13	9	—	<20.3%>		
(スイス)				千スイスフラン			
SWISS RE AG		308	340	3,101	471,044		保険
小 計	株 数 ・ 金 額	308	340	3,101	471,044		
	銘柄 数 < 比 率 >	1	1	—	<1.7%>		
(オーストラリア)				千オーストラリアドル			
SOUTH32 LTD		10,463	—	—	—		素材
小 計	株 数 ・ 金 額	10,463	—	—	—		
	銘柄 数 < 比 率 >	1	—	—	<—%>		
(シンガポール)				千シンガポールドル			
GENTING SINGAPORE LTD		63,955	—	—	—		消費者サービス
小 計	株 数 ・ 金 額	63,955	—	—	—		
	銘柄 数 < 比 率 >	1	—	—	<—%>		
合 計	株 数 ・ 金 額	282,358	199,053	—	25,529,040		
	銘柄 数 < 比 率 >	44	40	—	<93.5%>		

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 邦貨換算金額欄の<>内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

(注3) 株数・評価額の単位未満は切り捨て。

(注4) -印は組み入れなし。

○投資信託財産の構成

(2023年5月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	25,529,040	93.3
コール・ローン等、その他	1,840,089	6.7
投資信託財産総額	27,369,129	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注2) 当期末における外貨建純資産(26,970,043千円)の投資信託財産総額(27,369,129千円)に対する比率は98.5%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。2023年5月10日現在、1ドル=135.15円、1ユーロ=148.23円、1ポンド=170.65円、1スイスフラン=151.87円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年5月10日現在)

○損益の状況 (2022年5月11日～2023年5月10日)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	27,369,129,206
コール・ローン等	1,732,022,596
株式(評価額)	25,529,040,918
未収配当金	108,065,692
(B) 負債	70,533,022
未払解約金	70,500,000
未払利息	1,188
その他未払費用	31,834
(C) 純資産総額(A-B)	27,298,596,184
元本	7,211,673,673
次期繰越損益金	20,086,922,511
(D) 受益権総口数	7,211,673,673口
1万口当たり基準価額(C/D)	37,853円

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	1,089,054,354
受取配当金	1,089,223,191
受取利息	△ 39,170
その他収益金	111,946
支払利息	△ 241,613
(B) 有価証券売買損益	2,790,147,843
売買益	4,774,332,628
売買損	△ 1,984,184,785
(C) 保管費用等	△ 10,446,550
(D) 当期損益金(A+B+C)	3,868,755,647
(E) 前期繰越損益金	16,449,746,569
(F) 追加信託差損益金	5,729,889,795
(G) 解約差損益金	△ 5,961,469,500
(H) 計(D+E+F+G)	20,086,922,511
次期繰越損益金(H)	20,086,922,511

(注1) 当親投資信託の期首元本額は7,314,109,592円、期中追加設定元本額は2,371,910,205円、期中一部解約元本額は2,474,346,124円です。

(注2) 当親投資信託を投資対象とする投資信託の当期末元本額

しんきん世界好配当利回り株ファンド(毎月決算型)	5,310,105,347円
しんきんグローバル6資産ファンド(毎月決算型)	885,988,669円
しんきん世界好配当利回り株ファンド(1年決算型)	361,377,424円
しんきん世界アロケーションファンド	285,051,410円
しんきん世界アロケーションファンド(積極型)	249,804,473円
しんきんグローバル6資産ファンド(1年決算型)	119,346,350円

(注3) 1口当たり純資産額は3.7853円です。

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。